令和２年７月２１日

# 今日のシライ中

**本の翼**　白井中学校図書室から VOl.11

部活動もステップ３となり、学校での学習も、通常のペースに戻りつつあります。そうなると、少しずつ心配になるのが、「勉強」の二文字ですね。そんなあなたに、今回は学習のヒントになる２冊を紹介します。家庭学習の充実に悩んでいるそこの君！参考にしてみてくださいね。他にも「東大生のノートの取り方」等、いろいろありますよ！

## 『和算って、なあに？』　小寺　裕

私と同様、数学が・・・と思っているあなたに、クイズのように楽しめるこの本を紹介します。数学には今でも解けない難問が数々ありますが、そんな流れと無関係に、日本では、日本独自の「数学」が発展してきました。

江戸時代、鎖国の中、訪れた外国人が、日本のあちらこちらで、一般庶民が「日本の数学＝和算」を楽しんでいる姿を見て、たいそう驚いたというエピソードも伝わっています。例えば、奈良時代の「万葉集」に「十六」と書かれている動物。さあ、何でしょう？答えは「獅子」（しし）です。そうです、もう、かけ算を知り、しゃれで使っているのです。このように、先人たちは「数」で遊ぶことに熱中し、優れた数学者もたくさん排出されました。

それでは、本書から一つ、クイズです。一般的に「鶴亀算」という名前で知られている問題です。『ツルとカメが合わせて３５羽・匹いる。足の数は全部で９４本である。ツルとカメはそれぞれ何羽・何匹か？』ヒントは、「ツルの足の数は２本」「カメの足の数は４本」です。ああだろう、こうだろう考えてみてください。（答えはツル２３羽・カメ１２匹です。）えっ、どうして？と思ったあなた、本書１３８ページの説明を見てくださいね！江戸の人々も楽しんだ「和算」がたくさん紹介されている本です。

## 『中高生の勉強あるある、解決します』　池末翔太・野中祥平

「勉強が苦手、勉強がきらい」と思っている、あなた！今日紹介する本は、そんなあなたのお悩み解決にぴったりの１冊です。『そもそも、勉強で困っているのに、そんな難しいこと言われても…無理なんですけど。』『長い文章が読めるくらいなら、困らないんですけど。』そう思った人、大丈夫です。

まず、この本は①字が大きい！（多分皆が想像するより、きっと大きいです。）②１ページの情報量は多くて１０行！③困りごとは１ページに一つ。

現役中高生からのリアルな質問に、現役大学生が「僕らが中高生時代、欲しかったのはこれだぜ～！」と思う情報を噛み砕いて書いている！例えば、「問題集の使い方がわからない！」じゃあど～する？「できない問題を減らすために、○×△を書き込む！日付も！」これですよ、これ。あれもこれも全部やらなければ・・・と思うから辛いのです。できる・できないを選別した段階で、勉強は、８割終わっています。あとは、できなかった問題を集中的に解くだけです。こんな、ささやかだけれど、的を射た回答が、あなたのこれからを支えるでしょう！がんばれ！みんな！